

令和5年度岩手県薬事審議会 会議録

1 日時

令和5年11月14日(火) 午前10時から午前11時まで

2 場所

トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館) 4階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員

畑澤 博巳 委員、 舘澤 正宏 委員、 内藤 隆 委員、 尾形 由紀 委員、
幅野 渉 委員、 本間 博 委員、 和田 武彦 委員、 相馬 一二三 委員
(欠席委員:高橋 裕介 委員、 磯田 朋子 委員、 梶田 佐知子 委員、 滝村 敦子 委員)

(2) 専門委員

工藤 賢三 委員

(3) 事務局

企画理事兼保健福祉部長 野原 勝、 健康国保課総括課長 前川 貴美子、
薬務担当課長 千田 浩晋、 主任主査 築田 尚美、 主任 小田 哲也、 技師 鈴木 ゆめ

4 会議の内容

(1) 開会

(2) あいさつ(野原企画理事兼保健福祉部長)

(3) 委員紹介

(4) 会長選出・副会長選出

委員の互選により、会長に幅野委員が、副会長に畑澤委員が、それぞれ選出された。

(5) 議事

ア 岩手県の薬事行政の概要について(資料1)

[質疑・意見等]

○ (幅野委員)

盛岡市保健所のデータを追加ということだが、具体的にどこをみればいいのか。

○ (事務局)

薬事に関する許認可及び監視については、盛岡市保健所に業務がおりている。例えば、薬局、店舗販売業等の許可や医療機器の届出の受理などは、盛岡市保健所で行っており、その分の数字が加わっている。数字的に顕著にみられるのが、資料1、3ページの表の医療機器の欄、下から2つめの販売業の届出の欄のところである。2,356から3,222と大きく数が増えているが、この差が盛岡市の分というように考えていいかと思う。

○ (和田委員)

薬局、店舗販売業も同じ理由で急に増えていると考えていいか。

- (事務局)
そのとおり。
- (内藤委員)
店舗販売業、薬局及び配置販売業について、店舗数、開設の許可数は分かるが、従事者数のデータはどこ見れば分かるのか。登録販売者数は県で把握しているのか。
- (事務局)
県で統計的に把握はしていない。薬剤師については、三師統計等で国が把握し公表している。保健所で管理している許可台帳では、個々の店舗における薬剤師及び登録販売者を把握しているが、まとめて公表ということはしていない。
特に、登録販売者については、数字が毎日のように動いている状況でもあり、一覧での公表は難しい。
- (内藤委員)
登録販売者について、今、検討会をいろいろと行っており、国では管理者要件の把握を求めている。それについて、民間に求めるものなのか、県として把握し管理するものなのか。全体の統計的な数字は持っていないということによいか。
- (事務局)
管理者要件については、個々の店舗で勤務状況等を記録として残すことが法令で定められていることから、当該規定に基づき管理をしていただき、管理状況について保健所が立入検査時に確認することとなる。
- (内藤委員)
これまでどおりでよいということか。
- (事務局)
そのとおり。
- (幅野委員)
昨年度懸案事項だった、盛岡市のデータを追加するという部分も含め、着実に進んでいるという印象を受けている。今後とも滞りなく進めていただきたい。

イ 地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の認定状況について（資料2）

[質疑・意見等]

- (畑澤委員)
資料2、4ページの地域連携薬局の基準のところだが、一番目に利用者のプライバシーに配慮した相談しやすい構造設備となっている。県によっては、パーティションでの仕切りでは足りず、個室で他に音が漏れない設備構造が必要との基準で認定しているところもあると聞いている。岩手県ではどのような取扱いか聞きたい。
- (事務局)
国の通知では、ハード面で必ず壁で区切らなければならないとは言っていない。確かに声が聞こえないブースを作った方が望ましく、そのような指導を行っている都道府県もあるかとは思いますが、ある程度の配慮がされており、相談がしやすい環境ができていれば、必ずしも一つの部

屋にしなくても認定は受けられるという運用をしている。

○ (畑澤委員)

薬局から構造設備的に狭く申請できないという意見も出ているが、ある程度の許容があることが分かった。

○ (幅野委員)

なかなか難しいのだろうが、基準がよりクリアになると、申請がし易く、認定件数も伸びるかもしれないので、できればそのような方向に進んでいくとよいと思う。

○ (幅野委員)

資料2、7ページ8ページに地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の都道府県別のデータが出ているが、岩手県全体の薬局数からみた認定薬局数について他県と比べて多いのか少ないのか。

○ (事務局)

認定率については、統計等は取っていないが、同じような規模の秋田県、青森県、山形県などと比較して、岩手県が少なすぎるということはないと認識している。認定のハードルが高いこともあるため、引き続き保健所を通じて薬局への働きかけを続けていきたい。

○ (幅野委員)

順調に認定薬局数は伸びているようだ。がん専門の薬剤師も増えているようなので、今後も認定へ向けた薬局の取組への支援を進めていただきたい。

ウ 薬剤師確保について(資料3)

[質疑・意見等]

○ (畑澤委員)

資料3、47ページに具体的な施策が何個か出ている。この中で、潜在薬剤師の復帰支援という項目があるが、この事業については薬剤師会として何年も実施している。現在の薬剤師を取り巻く環境がDX化などもあり以前に比べ非常に進んでいることから、一度退職した薬剤師を復帰させるために、就業のための研修会などを行っているが、一度退職された方が現状になじまないという危機感を感じている。

実際には、就学する薬学生へのアプローチが非常に重要な部分になると思っている。医療計画部会でも話したが、現在、奨学金や学資ローンの返済などを抱えている薬学生は、卒業し就職するとすぐに返済が始まる。全国的なチェーン薬局は手当などが充実しており、基本給はそれほど変わらないものの、相対的に金額が大きいということで、薬学生はそちらに目が行き就職する流れになる。結果、病院薬剤師になる薬学生が少ないという傾向がみられる。返すお金に対する支援策が一番重要だと考えているが、いかがか。

○ (事務局)

委員御指摘のとおりだと県としても認識している。奨学金の返済が非常に負担となり、初任給が高い薬局に流れているという実態はそのとおりだと感じている。奨学金の返済に係る県の取組だが、今まさに進めているところ。本来であれば、計画案にその旨も書くべきところだが、いろいろ事情がありまだ確定ではないということで記載を控えさせていただいた。もう少しお待ちいただきたい。

○ (畑澤委員)

本来であれば、この計画の中に案が出てくるのが一番望ましいと思うが、事情は分かった。そのような方向に向かって取り組んでいるということで非常に安心した。よろしく願います。

○ (幅野委員)

大学側としても普段学生と接しているが、やはり見ていると、奨学金が重く感じられてどうしても目の前にある給料に目が行きがちで、進路先にも影響があるのではないかと感じている。奨学金の返済に関して補助等があるといいと思っているので、是非お願いしたい。医師に関しては県の取組が比較的先に進められている感じがするので、是非薬剤師それから看護師もそうだが、同様に進んでいくといいと思う。

○ (工藤専門委員)

県として、病院薬剤師の確保に対して取組を行うということで非常に心強く思っている。具体的な施策として動かしていただけるということでありがたいと思っている。

危惧していることとして、ガイドラインでもあったが、今回指標のための人数を出しているが、その出し方は、業務の中で、調剤は勿論、病棟の業務等々も含めた時間からそれが達せられていない部分に対して人数割りをしていると理解している。そうなると、岩手県内もそうだが、全国的にも、実情は同じだと言えるが、比較的中小の病院の中では、病棟に薬剤師の配置ができていなくても、基本的には定員を満たしているということで、新たに雇をしないということもある。人が増えるのは非常にありがたいが、実際は病院等の採用活動が繋がらないと、募集がないと人が留まらないので、中期的な部分で確保を広げるといった施策も実施していかないと、岩手県の中で薬剤師が充足されないことになると思うので、その辺も含めてお考えいただきたい。

○ (幅野委員)

これは、我々岩手県民の将来に関わる問題で、医師を含めた、薬剤師、看護師、多職種での充実が望まれるので、是非進めていっていただきたいと思う。

(6) その他

○ (畑澤委員)

第8次の医療計画の中で、災害薬事コーディネーターを設置しなければならないとある。これは医政局マターなのでここで審議することではないが、この前の医療計画部会でもお話ししたところではあるが、薬に関することであるので、薬務の方からも是非プッシュしていただいて、医療計画の中に災害薬事コーディネーターが記載されるようお願いしたい。

○ (幅野委員)

災害薬事コーディネーターについて、是非要望を伝えていただきたい。